

2026 年 3 月期 決算説明会（2026 年 5 月 25 日開催）質疑応答

※質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で一部加筆・省略したものです

Q1 27 年 3 月期について、セグメントとして報告されていないその他の事業の受注高、全社の受注高を開示頂けないか。また、航空機事業で受領する補助金、持分法投資損益をどの程度見ているか？

A1 その他事業については開示していないが、基本的に大きな変動はない。ほぼ受注高イコール完工高と考えて頂きたい。持分法についても開示していないが、営業利益、経常利益などからご推察頂きたい。

-----

Q2 その他の事業の売上高について、26 年 3 月期と 27 年 3 月期の見込みから計算すると約 10 億円減る想定のようなのだが、この理解で正しいか？

A2 その他の事業としては大きな変動はなく、セグメント間取引などの調整によるもの。

-----

Q3 27 年 3 月期末の工事損失引当金はどの程度の水準を見込んでいるか？

A3 これも開示していない。工事損失引当金は時間が経過し完工高が上がればそれだけで減少していくが、当期は設計変更があまり上がらない見通しであるし、新規受注の状況によっても影響を受ける。見積もりは難しい。

-----

Q4 26 年 3 月期のロボット事業の収益状況はいかがか。今期は赤字なのか。また、中期経営計画で全体の収益がかなり伸びる想定になっているかと思うが、これはロボットが伸びるという見立てなのか、イメージ感を頂きたい。

A4 今期は営業段階で若干の黒字である。中計においてロボットで大きな収益の増加は見込んでいない。主として伸びるのはソフトウェアで、国土交通省の DX 化に伴い事業チャンスが増える期待や、新たな取り組みが上市できればというようなことを考えている。

-----

Q5 鉄構セグメントの受注が前期と比較して 73 億円減少する見通しだが、鋼製橋梁と建築鉄骨での内訳を教えて欲しい。また、26 年 3 月期で売上高が減少しているが、これは例えば橋梁での減少が大半でビルが増収の結果というようなことか。

A5 両方減少する見通しで、特に橋梁が減る見通し。鉄骨は首都圏が端境期だが関西案件でカバーするが、橋梁は今見えている新規入札物件をベースに考えていることもあり、橋梁の方がより落ちる見通しとしている。また、26 年 3 月期については両方が大きく落ちている。

-----

Q6 建築セグメントの当期の予想について、多層階倉庫へのチャレンジの影響はまだ残っているのか。

A6 もうあまりない。建築の利益は竣工に近づくにつれてプロジェクトで見込む全体の費用がリスクから解放されて減少し、この際に大きく計上される傾向があるのが特色である。この点、受注は引き合い多いが総じて着工は少し後になりそうなこともあり、竣工段階での収益はまだ見通せない。現時点で利益率は前期比で減少しているが、これから上げていきたい。

-----

Q7 NTT-ME さんとの実証実験について、同じ高所作業なら例えば送電線などの工事もあるように思う。そちらは高圧線に触れるなどより高いリスクがありそうだが、同じような感覚で取り組めるものなのか。あるいは必要な技術的に差がありハードルが高くなるのか。

A7 この取り組みは、高所作業のような危険作業に携わる人材の不足、高齢化などが背景にある。技術自体は仰る通り他にも応用できるものだが、実際に使われるようになるまではまだ時間がかかる。例えば、降雨の際、あのままではロボットはショートしてしまうし、原子力発電所では電磁波の問題もある。リアル的环境下では様々な問題が出てくるので、即製品化という訳にはいかない。それでも、この実証実験で我々の製品を使ってこういった作業ができるということは、フィジカル A I の取り組みとして、大きな一歩と見て頂きたい。

以上